

## ご修理のときは

お買い求めの販売店、またはホームセンターにお申し付けください。  
なお、修理を依頼する販売店やホームセンターがお近くにない場合は、  
弊社 WEB サイトから修理受付けを行っていますのでアクセスしてください。



<https://www.hikoki-powertools.jp/contact/repair/>

### お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておくと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

### お客様相談センター

●フリーダイヤル (9:00 ~ 18:00)

**0120-20-8822** ※携帯電話、IP 電話からもご利用いただけます。

## 工機ホールディングス株式会社

〒108-6018 東京都港区港南 2 丁目 15 番 1 号 (品川インターシティ A 棟 18 階)

電動工具ホームページ — <https://www.hikoki-powertools.jp>

部品コード C99752701 510 G

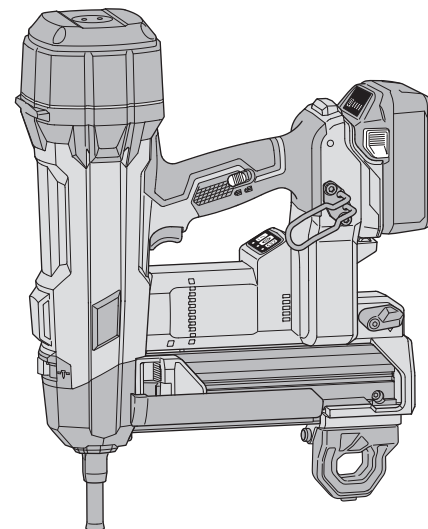
# HIKOKI

## 取扱説明書

### コードレスコンクリート釘打機

18 V NC 1840DA

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、  
ありがとうございました。  
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、  
正しく安全にお使いください。  
お読みになった後は、いつでも見られる所に  
大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用了場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

### はじめに

コードレス工具の安全上のご注意	1
本製品の使用上のご注意	5
リチウムイオン電池の使用上のご注意	9
用途	11
各部の名称	11
仕様	12
標準付属品	12
別売部品	13

### 使い方

ご使用前の点検・準備	14
蓄電池の取付け・取りはずし	15
フック	15
1 充電当たりの作業量	16
機体の起動方法	16
掛違い検出・解除機構	17
LED ライト	17
警告シグナル	18
空打ち防止機構	19
打ち込み深さの調整	19
スタビライザ	20
釘の取扱い方	20
釘の装てんと抜き取り	21
釘を打つ	23
釘詰まりの直し方	25

### その他

保守・点検	27
ご修理のときは	裏表紙

## ⚠警告、⚠注意、注 の意味について

**⚠警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

**⚠注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

**注** : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、**⚠注意**に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

## コードレス工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

### ⚠警告

- ① **専用の充電器や蓄電池を使用してください。**  
弊社カタログに記載されている指定の充電器や蓄電池を使用してください。  
指定以外の蓄電池を使用すると、破裂して傷害や損害を及ぼす恐れがあります。
- ② **蓄電池の端子間を短絡（ショート）させないでください。**  
釘袋などに入れると、短絡（ショート）して、発煙・発火・破裂などの恐れがあります。
- ③ **蓄電池の内部に、水のような導電性の液体を入れないでください。**  
発熱・発火・破裂などの恐れがあります。
- ④ **作業場や保管場所の周囲状況も考慮してください。**
  - 工具本体や蓄電池は、雨の中や湿った場所で使用・放置・保管をしないでください。感電や発煙の恐れがあります。
  - 作業場は十分に明るくしてください。  
暗い場所での作業は、事故の原因になります。
  - 可燃物、可燃性あるいは腐食性の液体やガスがある所での使用・充電・保管をしないでください。発火や火災の恐れがあります。
- ⑤ **保護メガネを使用してください。**  
作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。  
切削した物や粉じんが目や鼻に入る恐れがあります。

### ⚠警告

- ⑥ **加工する物をしっかりと固定してください。**  
加工する物を固定するために、クランプや万力などを使用してください。  
手で保持するより安全で、両手でコードレス工具を使用できます。  
固定が不十分な場合は、加工する物が飛んで、けがの原因になります。
- ⑦ **次の場合は、コードレス工具のスイッチを切り（OFF）、蓄電池を工具本体から取りはずしてください。**
  - 使用しない、または、準備・調整・保守・点検する場合。
  - 付属品や別売部品を取付け、交換する場合。
  - その他、危険が予想される場合。  
コードレス工具が作動して、けがの原因になります。
- ⑧ **不意な始動は避けてください。**  
スイッチに指を掛けて運ばないでください。  
コードレス工具が作動して、けがの原因になります。
- ⑨ **指定の付属品や別売部品を使用してください。**  
この取扱説明書、および弊社カタログに記載されている指定の付属品や別売部品を使用してください。事故やけがの原因になります。
- ⑩ **蓄電池を火の中に投入しないでください。**  
破裂して、有害物質が出る恐れがあります。

### ⚠注意

- ① **作業場は、いつもきれいに保ってください。**  
散らかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② **子供を近づけないでください。**
  - 作業員以外、コードレス工具に触れさせないでください。けがの原因になります。
  - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。
  - 安全の責任を負う人の監視または指示がないかぎり、補助を必要とする人が単独で  
使用しないでください。
- ③ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**
  - 乾燥した場所で、子供の手が届かない所または鍵のかかる所に保管してください。  
事故の原因になります。
  - 工具本体や蓄電池を、温度が 50℃ 以上に上がる可能性のある場所（金属の箱や  
夏の車内など）に保管しないでください。  
蓄電池劣化の原因になり、発煙、発火の恐れがあります。

## ⚠注意

- ④ 無理して使用しないでください。
- 安全に能率良く作業するために、コードレス工具の能力に合った速さで作業してください。能力以上での使用は、事故の原因になります。
  - モーターがロックするような無理な使い方はしないでください。発煙、発火の恐れがあります。
- ⑤ 作業に合ったコードレス工具を使用してください。
- 大形のコードレス工具で行う作業には、小形のコードレス工具・別売部品を使用しないでください。けがの原因になります。
  - 指定された用途以外に使用しないでください。けがの原因になります。
- ⑥ きちんとした服装で作業してください。
- だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、着用しないでください。回転部に巻き込まれる恐れがあります。
  - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。滑りやすい手袋や履物は、けがの原因になります。
  - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。回転部に巻き込まれる恐れがあります。
- ⑦ 無理な姿勢で作業をしないでください。
- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。転倒して、けがの原因になります。
- ⑧ コードレス工具は、注意深く手入れをしてください。
- 安全に能率良く作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。損傷した刃物類を使用すると、けがの原因になります。
  - 付属品や先端工具の取付け・取りはずしは、取扱説明書に従ってください。
  - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースが付かないようにしてください。けがの原因になります。
- ⑨ 調整キーやスパナなどは、スイッチを入れる前に取りはずしてください。
- 調整キーやスパナなどの工具類が、取りはずしてあることを確認してください。付けたままでは作動時に飛び出して、けがの原因になります。
- ⑩ 油断しないで十分注意して作業をしてください。
- コードレス工具を使用する場合は、取扱い方法、作業の仕方、周りの状況など、十分注意して慎重に作業をしてください。軽率な行動をすると、事故やけがの原因になります。
  - 常識を働かせてください。非常識な行動をすると、事故やけがの原因になります。
  - 疲れている場合は、使用しないでください。事故やけがの原因になります。
- ⑪ 十分な防じん対策や飛散防止対策をしてください。
- 特に、人体に有害な成分を加工するときは注意してください。

## ⚠注意

- ⑫ アスベスト(石綿)周辺の環境下(除去作業を含む)で使用しないでください。
- アスベストは、人体に肺がん等の重大な健康被害を発症させる物質です。
- ⑬ 損傷した部品がないか点検してください。
- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
  - 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
  - 破損した保護カバー、その他の部品交換は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に依頼してください。
  - スイッチで始動および停止操作のできないコードレス工具は、使用しないでください。誤作動して、けがの原因になります。
- ⑭ コードレス工具の修理は、専門店で依頼してください。
- サービスマン以外の方は、工具本体や蓄電池の分解・修理・改造をしないでください。発火や誤作動など、けがの原因になります。
  - コードレス工具が高温になるなど、異常に気付いたときは、点検・修理に出してください。
  - この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
  - 修理は、お買い求めの販売店に依頼してください。修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因になります。
  - アスベスト(石綿)周辺の環境下(除去作業を含む)で使用したコードレス工具の保守・点検・修理は受けできません。

### ○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になる必要があります。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。



# 本製品の使用上のご注意

先にコードレス工具として共通の注意事項を述べましたが、コードレスコンクリート釘打機について、次に述べる注意事項を守ってください。

## ⚠警告

- ① **保護メガネを使用してください。**
  - 作業中は保護メガネを使用してください。
  - 周りの人にも保護メガネをかけさせてください。  
釘を連結している接着剤や打ち損じの釘が目にあたると、けがの原因になります。
- ② **騒音から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。**
- ③ **作業環境に応じてヘルメット、安全靴、防じんマスクなどの防具を着用してください。**
- ④ **蓄電池を取付ける前に、次の点検をしてください。**
  - ねじがゆるんでいないこと。
  - 損傷したり、はずれている部品がないこと。
  - さび付きなどで、正常に作動しない部品がないこと。
  - プッシュレバーがスムーズに動くこと。
  - 押し込んだプッシュレバーが元の位置に戻ること。  
異常があるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常があるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
  - トリガがロックされていること。
- ⑤ **蓄電池を取付けるときは、次のことに注意してください。**
  - プッシュレバーの先に触れたり、対象物に当てた状態にしない。
  - 射出口を人体に向けない。  
誤って釘を発射した場合、けがの原因になります。
- ⑥ **コンクリートへの釘打ち作業は次のことに注意してください。**
  - 釘は指定のコンクリート用釘を使用してください。  
釘がコンクリートに入らず、曲がって跳ね返る恐れがあり、けがの原因になります。
  - 釘を打つ所に釘打機を垂直にして打ってください。  
斜めに打つと、釘がコンクリートに入らず、曲がって跳ね返る恐れがあり、けがの原因になります。
  - コンクリートに直接打つ作業はしないでください。  
コンクリート片が跳ねたり、釘が曲がって跳ね返る恐れがあり、けがの原因になります。
  - コンクリートの端に釘を打たないでください。  
コンクリートが割れて飛散したり、釘がそれて飛び恐れがあり、けがの原因になります。
  - 物をつり下げる所（配管のつり下げなど）へ使用しないでください。

## ⚠警告

- ⑦ **使用前に安全装置の点検をしてください。**

本製品は、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当て、さらにトリガを引かないと釘が発射されない構造になっています。  
釘を装てんする前に蓄電池を取付け、フィードノブを後方へ引いた状態で次の点検をしてください。

  - トリガを引いただけで、モーターが作動しないこと。
  - プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、モーターが作動しないこと。  
異常があるまま使用すると、けがの原因になりますので、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- ⑧ **人体に射出口を向けないでください。**

人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。
- ⑨ **無理な姿勢で作業をしないでください。**
  - 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
  - 高所作業のときは、落ちることのないように足場の安全性を十分確認してください。  
転倒や落下など、けがの原因になります。
- ⑩ **射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。**

誤って釘を発射したり、跳ね返って飛んだときなど、けがの原因になります。
- ⑪ **作業する箇所に、電線管・水道管やガス管などの埋設物がないことを、作業前に確認してください。**
- ⑫ **使用中は、機体をしっかりと保持してください。**
- ⑬ **釘を打ち込む材料の裏側に、手や体を置かないでください。**

釘が突き抜けたり、材料が欠けたときなどに、けがの原因になります。
- ⑭ **可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。**

可燃性の液体やガス（シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など）のある所で使用しないでください。  
釘を打ち込むときの火花による爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。
- ⑮ **釘を打ち込むとき以外は、トリガをロックしてください。また、トリガに指を掛けしないでください。**
  - トリガに指を掛けて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
  - 釘を装てんするときや調整などをするときは、トリガに指を掛けしないでください。  
誤って釘を発射する恐れがあり、けがの原因になります。
- ⑯ **次の場合は、トリガをロックして、蓄電池を工具本体から取りはずしてください。**
  - 使用しない場合や作業中断時。
  - 点検・調整、釘詰まりの直しなどの場合。
  - 釘の装てん、または抜き取る場合。  
誤って釘を発射する恐れがあり、けがの原因になります。

## ⚠ 警告

- ⑰ 釘を打つときは、プッシュレバーを確実に対象物に当ててください。一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。  
釘が跳ね返ったり、機体が反発することもあり、けがの原因になります。
- ⑱ 作業中は周りの人に注意してください。  
• 釘を連結している接着剤やテープの破片、打ち損じた釘が当たる恐れがあります。  
• 高所作業のときは、下に人がいないことを確認してください。  
機体や材料を落としたときなど、事故の原因になります。
- ⑲ 薄い板や木材の端に釘を打たないでください。  
薄い板に打つと釘が突き抜けたり、木材の角に打つと釘がそれたりして、けがの原因になります。
- ⑳ 機体の反発に注意してください。  
かたい所に打った場合、機体が跳ね返ることがあるため、顔を近づけないでください。
- ㉑ 壁の両側から同時に釘打ち作業をしないでください。  
打った釘が突き抜けたり、壁ぎわの釘がそれたりして、けがの原因になります。
- ㉒ 以下の場所では、次のことに注意してください。  
• 屋根などの斜面で釘を打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。  
後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。  
• 床などの水平面で釘を打つときは、前進しながら作業してください。  
後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。  
• 壁などの垂直面に釘を打つときは、上から下へ作業してください。
- ㉓ 誤って落したり、衝撃が加わったりしたときはトリガをロックし、蓄電池を取りはずして機体や釘などに破損や亀裂、変形がないことを点検してください。  
特に次の点に注意してください。  
• プッシュレバーがスムーズに動くこと。  
• 押し込んだプッシュレバーが元の位置に戻ること。
- ㉔ 機体で材料をたたき、落下等の強い衝撃を加える、水にぬらすことなどをしないでください。  
内蔵している精密部品が破損し、誤作動等をおこす原因になります。
- ㉕ 工具本体の端子部（蓄電池取付部）に、コンクリート粉じんや切りくず、ほこりがたまらないようにしてください。  
• 使用前に、端子部にコンクリート粉じんや切りくず、ほこりがたまっていないことを確認してください。  
• 作業中に、機体に付いたコンクリート粉じんや切りくず、ほこりが端子部に降りかからないようにしてください。  
• 使用中断時、および使用後にコンクリート粉じんや切りくず、ほこりが降りかかる場所に機体を放置しないでください。  
短絡（ショート）して、発煙・発火などの恐れがあります。

## ⚠ 警告

- ㉖ 工具本体の端子部（蓄電池取付部）に変形が生じた場合は、使用しないでください。  
短絡（ショート）して、発煙・発火の恐れがあります。

## ⚠ 注意

- ① LED ライトの光を目に当てないでください。  
② スイッチパネルに強い衝撃を与えたり、破いたりしないでください。  
③ 蓄電池は確実に取付けてください。

## ⚠ 警告マークについて



このマークのある操作・手順では、必ずトリガをロックし、蓄電池を工具本体から取りはずしてください。  
蓄電池を工具本体に装着したまま準備や点検、釘の装てん、抜き取りなどをすると、予期できない作動を招いて事故やけがの原因になります。

# リチウムイオン電池の使用上のご注意

本製品はリチウムイオン電池を使用します。リチウムイオン電池には、寿命を長くする目的で出力を停止する保護機能が付いています。

下記 ①、②、③ の場合、本製品を使用中にモーターが停止することがあります。これは保護機能によるものであり故障ではありません。

- ① 電池残量が少なくなるとモーターが停止します。  
速やかに充電してください。
- ② 過負荷状態になるとモーターが停止する場合があります。  
スイッチを切り、過負荷の原因を取り除いてください。
- ③ 蓄電池が過熱状態になるとモーターが停止する場合があります。  
蓄電池の使用を中断し、工具本体より取りはずして、風通しの良い日かげなどで蓄電池を十分に冷ましてください。

再びご使用になれます。

さらに蓄電池の液漏れ、発熱・発煙・発火を未然に防ぐため、次に述べる注意事項を守ってください。

## ⚠ 警告

- ① 蓄電池の端子部に、切りくずやほこりがたまらないようにしてください。
  - ・使用前に、端子部に切りくず、ほこりがたまっていないことを確認してください。
  - ・作業中に、機体に付いた切りくず、ほこりが端子部に降りかからないようにしてください。
  - ・使用中断時、および使用後に切りくず、ほこりが降りかかる場所に機体を放置しないでください。
- ② 誤って落とすなど、蓄電池の端子部に変形が生じた場合は、使用しないでください。また、外傷、変形の著しい蓄電池は使用しないでください。
- ③ 蓄電池に釘を刺す、ハンマーでたたく、踏みつける、投げつけるなど強い衝撃を与えないでください。
- ④ 蓄電池を指定機器以外の用途に使わないでください。
- ⑤ 蓄電池を電子レンジや高圧容器に入れるなど、過熱・高圧を与えないでください。
- ⑥ 蓄電池が液漏れしたり、異臭を発したりするときは直ちに火気より遠ざけてください。
- ⑦ 強い静電気の発生する場所では使用しないでください。
- ⑧ 蓄電池の使用、充電、保管時に異臭・発熱・変色・変形、その他異常に気が付いたときは、直ちに使用を中止して、お買い求めの販売店に相談してください。

## ⚠ 警告

- ⑨ 蓄電池にアルカリ系の潤滑剤や切削液が付着した場合は、速やかに乾いた布でふき取ってください。  
ケースの破損や劣化の原因になります。

## ⚠ 注意

- ① 蓄電池が液漏れして液が目に入ったときは、こすらずにすぐ水道水などのきれいな水で十分に洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。  
放置すると液により目に障害を与える原因になります。
- ② 蓄電池が液漏れして液が皮膚や衣類に付着した場合は、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。  
皮膚がかぶれたりする原因になる恐れがあります。
- ③ 蓄電池を一般のごみと一緒に捨てないでください。
- ④ 蓄電池は子供の手が届かない所に保管してください。
- ⑤ 蓄電池の仕様表示に従って正しく使用してください。

## 蓄電池はリサイクルへ

蓄電池はリサイクル可能な貴重な資源です。蓄電池を廃棄する際は、リサイクルにご協力いただき、お買い求めの販売店にご持参ください。



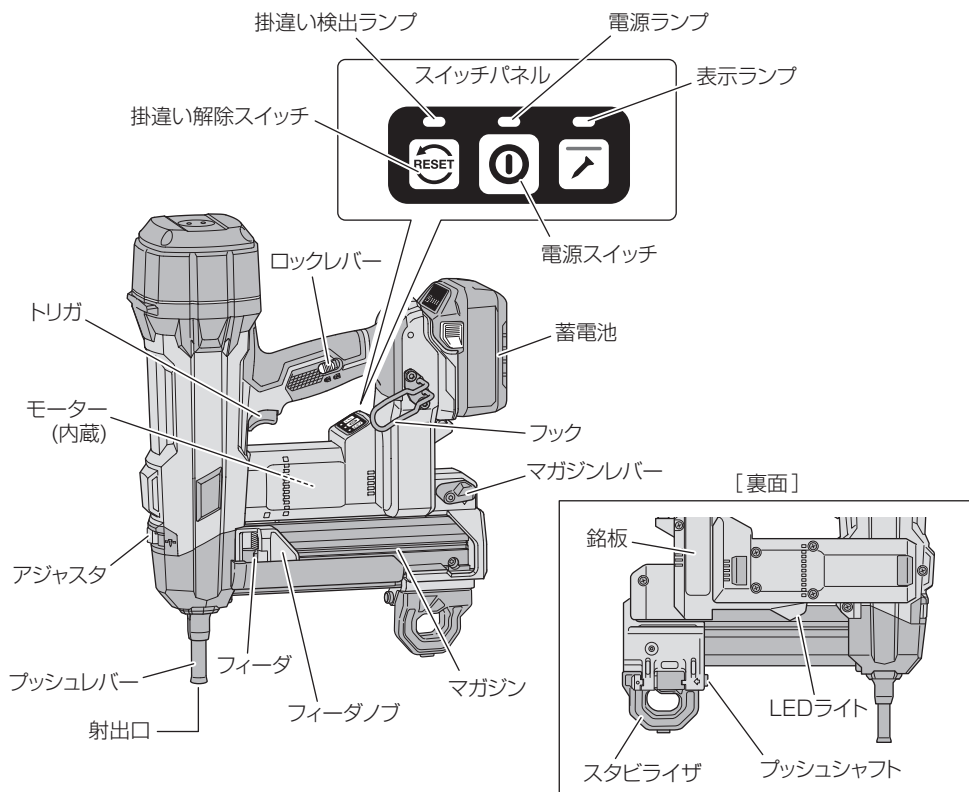
### ○ 蓄電池は、弊社純正品をご使用ください

弊社指定の蓄電池以外の使用や分解、改造した物（蓄電池を分解してセルなどの内蔵部品を交換した物を含みます）は、安全性や製品に関する保証ができません。

## 用 途

- コンクリート施工の間仕切りランナー取付け作業
- コンクリートへの木材取付け作業
- 配線サドルバンド留め作業
- 鉄骨（H型钢）に対する薄鋼板留め

## 各部の名称



## 仕 様

形 名	NC 1840DA				
使 用 釘	プラスチック連結釘 (寸法単位:mm)				
	形 状	全長 L1	首下長さ L2	頭径 D	軸径 d
		20	19	6.2	2.6
		25	24		
		40	39		
		15	13		
		22	21		3
釘 の 装 て ん 数	25本 (2連 + 5本)				
モ ー タ ー	直流ブラシレスモーター				
電 池 電 圧	18V				
使用可能蓄電池	リチウムイオン電池 <ul style="list-style-type: none"> <li>●マルチボルトタイプ蓄電池</li> <li>●18V (BSL18**シリーズ)</li> </ul>				
工具本体寸法 (全長×高さ×幅)	333×400×120mm [BSL 36A18X 装着時]				
質 量	4.9kg [BSL 36A18X 装着時]				
LED ラ イ ト	白色LED				

## 標準付属品

品 名	仕 様	2XPZ	NN
蓄電池 ●取扱い方法は、蓄電池の取扱説明書を確認してください。	2 個 [本体装着1、 予備1]	—	—
充電器 ●取扱い方法は、充電器の取扱説明書を確認してください。	1 台	—	—
保護メガネ	1 個	1 個	—
収納ケース	1 個	—	—
電池カバー	2 個	—	—



## 別売部品 (別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。)

### 釘

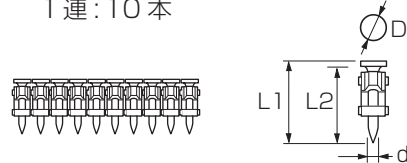
本製品は、右図に示すプラスチック連結釘が使用できます。

釘打ち作業の用途に合わせて、下表から適切な釘をお選びください。

釘は、コードレスコンクリート釘打機をお買い上げの販売店で求めください。

### 【プラスチック連結釘】【釘の寸法・形状】

1 連: 10 本



### 注 弊社指定の釘を使用してください。

指定以外の釘を使用すると釘詰まりすることがあり、故障の原因になります。

(寸法単位: mm)

形 名	全長 L1	首下長さ L2	頭径 D	軸径 d	用 途	材料の厚さ	コンクリート/ 鋼材への貫入量※
C2620-2	20	19		2.6	薄鋼板 (0.8 以下) + コンクリート	0.8 ( 薄鋼板 )	約 17
C2625-2	25	24			薄鋼板 (0.8 以下) + コンクリート	0.8 ( 薄鋼板 )	約 21
					薄鋼板 (3.2 以下) + コンクリート	3.2 ( 薄鋼板 )	約 17
C2640-2	40	39			木材 + コンクリート	21 ( 木材 )	約 17
C3015M2	15	13	6.2	3	薄鋼板 (0.8 以下) + コンクリート	0.8 ( 薄鋼板 )	約 11
					薄鋼板 (0.8 以下) + 鋼材 (9 以下)		約 8
C3022M2	22	21			薄鋼板 (0.8 以下) + コンクリート	0.8 ( 薄鋼板 )	約 18
					木材 + 鋼材 (9 以下)	12 ( 木材 )	約 7

※ 貫入量は、コンクリート等の条件により異なります。



## ご使用前の点検・準備

### ●安全装置と各部の点検

P.27「保守・点検」を参照し、安全点検を必ず行ってください。

### ●釘の準備

用途に合った釘を準備してください。(P.13「別売部品」参照)

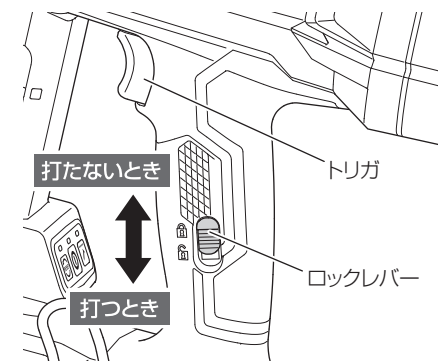
### ●トリガのロック機構について

本製品には、トリガを引けなくするロック機構が付いています。

ロックレバーを「」の位置にすると、トリガがロックされます。

打つときはロックレバーをスライドして「」の位置にし、打たないときは「」の位置にしてください。

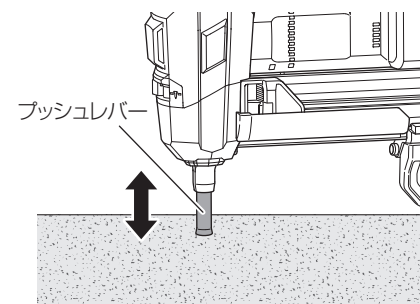
また、「」の位置でトリガが引けないことを確認してください。



### ●プッシュレバーの摺動確認

プッシュレバーを材料に押し当てて機体を上下させ、プッシュレバーがスムーズに摺動することを確認してください。

動きが悪いときは、プッシュレバーの摺動部を清掃してください。

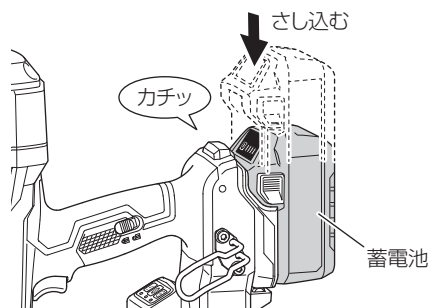




## 蓄電池の取付け・取りはずし

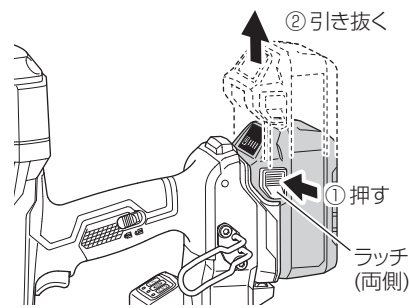
### 取付けるとき

「カチッ」と音がするまで、確実にさし込んでください。



### 取りはずすとき

両側のラッチを押しながら、スライドさせて引き抜きます。



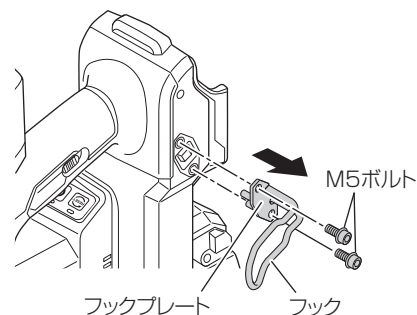
## フック

左右に付け替えて使用できます。

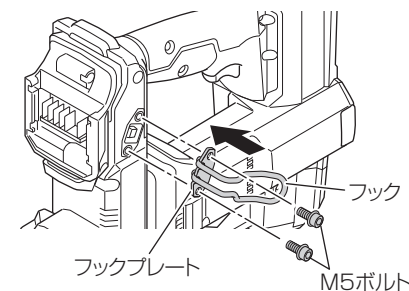
### ⚠注意

- フックを使用するときは、機体が落下しないように、しっかりと掛けてください。
- フックはしっかりと取付けてください。

六角棒スパナを使用して、ボルトを取りはずします。



取付けのときは、逆の手順で行ってください。



## 1 充電当たりの作業量

1 充電当たりの作業量の目安を示します。  
(打ち込み本数は、使用環境、蓄電池の状態などにより異なります。)

[蓄電池 BSL 36A18X 使用時]

### 打ち込み本数

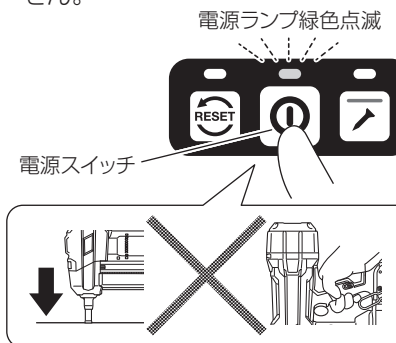
約 620 本

## 機体の起動方法

蓄電池を取付け、スイッチパネルの電源スイッチを 1 秒以上押し続けると、機体が起動します。

起動した状態で、電源スイッチを 1 秒以上押し続けると、機体が停止します。

**注** 機体を起動させる際は、プッシュレバーを押し当てたり、トリガを引いたりしないでください。  
プッシュレバーを押し当てたり、トリガを引いた状態では、機体は起動しません。



[停止中]

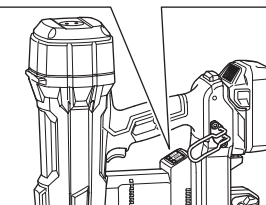


電源スイッチ

[起動中]



電源スイッチ

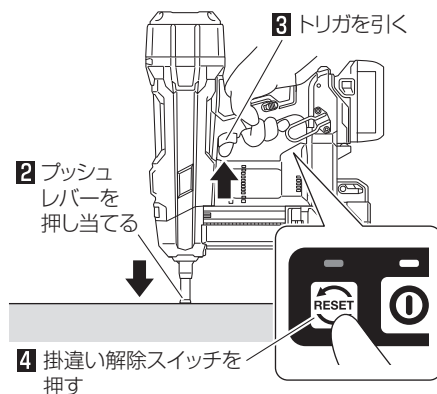


## 掛違い検出・解除機構

釘打ちに失敗し、ブレード巻上げ部品の噛み合いがズレた場合に、「掛違い検出ランプ」を点灯させ、作動を停止させます。

### 掛違いの解除方法

- 1 釘詰まりを確認し、詰まっている場合は取り除いてください。  
(P.25「釘詰まりの直し方」参照)
- 2 プッシュレバーを材料に押し当てます。
- 3 トリガを引きます。
- 4 掛違い解除スイッチを押します。

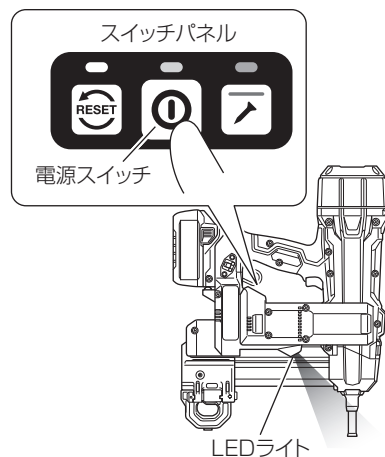


**注** モーターが駆動して部品の噛み合いが正常になると、掛違い検出ランプが消灯します。掛違い検出ランプが点灯し続ける場合は、上記の②～④を何度か繰り返してください。

## LEDライト

電源スイッチを押し、機体が起動するとLEDライトが点灯します。  
約30分後に自動消灯します。

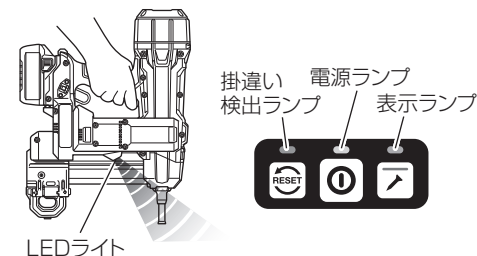
**注** ライトのレンズ部に付着したごみは、柔らかい布などでふき取り、ライトのレンズ部に傷が付かないようにしてください。



## 警告シグナル

本製品は、工具本体の状態を検出する機能が付いており、作業中に各検出機能が作動すると、LEDライトとスイッチパネルのランプが以下のように点灯してお知らせします。

各検出機能が作動したときは、直ちにトリガから指をはなし、対処方法に従ってください。



**注** 対処方法を実施しても改善しない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

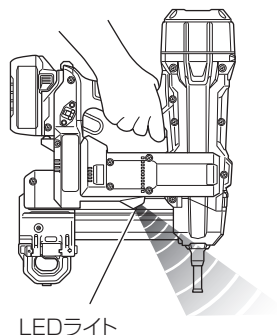
状 態	表 示	対 処 方 法
安全保護 (起動時)	LEDライト: 点滅 電源ランプ: 緑色点滅 表示ランプ: 緑色点滅	プッシュレバーを押ししたり、トリガを引いたりせずに、起動し直してください。
安全保護 (使用時)	LEDライト: 点滅 電源ランプ: 緑色点灯 表示ランプ: 青色点灯	はじめにプッシュレバーを押し当ててから、トリガを引いてください。
タイムアウト	LEDライト: 点滅 電源ランプ: 緑色点灯 表示ランプ: 青色点灯	プッシュレバーを押し当てたまま、2秒以内にトリガを引いてください。
空打ち防止	LEDライト: 点滅 電源ランプ: 緑色点灯 表示ランプ: 青色点灯	釘を装てんしてください。
温度保護	LEDライト: 点滅 掛違い検出ランプ: 赤色点滅 表示ランプ: 赤色点滅	蓄電池、および工具本体を十分に温めると冷ましてください。
電池電圧低下※	LEDライト: 点滅 掛違い検出ランプ: 赤色点滅 電源ランプ: 緑色点灯 表示ランプ: 青色点灯	蓄電池を充電してください。
過負荷	LEDライト: 点滅 掛違い検出ランプ: 赤色点滅 電源ランプ: 緑色点灯 表示ランプ: 青色点灯	蓄電池を取りはずし、P.25「釘詰まりの直し方」に従い、大きな負荷となった原因(マガジン内部に詰まった釘等)を取り除いてください。
掛違い検出	LEDライト: 点滅 掛違い検出ランプ: 赤色点灯 電源ランプ: 緑色点灯 表示ランプ: 紫色点灯	P.17「掛違い検出・解除機構」に従い、掛違い解除をしてください。
その他	その他の点滅	故障の可能性があります。 お買い求めの販売店にお問い合わせください。

※ 低温状態のときは、蓄電池残量があっても「電池電圧低下」を検出する場合があります。

## 空打ち防止機構

本製品は釘がなくなった後の空打ちを防ぐため、空打ち防止機構を備えています。

釘の残量が少なくなるとLEDライトが点滅し、機体が作動しなくなります。

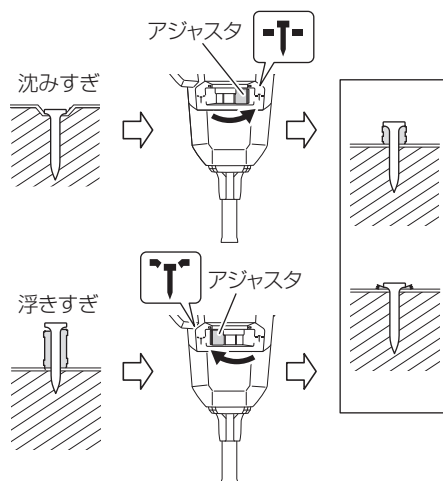


## 打ち込み深さの調整

アジャスタを切り替えることにより、打ち込み深さを調整できます。

試し打ちし、釘が沈みすぎるときはアジャスタを浮く方(マーク「↑」)に切り替えます。釘の頭が浮くときは、アジャスタを沈む方(マーク「↓」)に切り替えます。

**注** アジャスタは浮く方、または沈む方に最後まで確実に切り替えてください。



## スタビライザ

スタビライザは、プッシュレバーを平面に対して垂直に保つための支えとして使用します。凹凸のある安定しない面で作業する際は、スタビライザを閉じて使用してください。

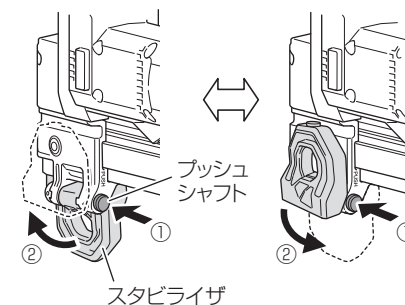
### スタビライザの開閉方法

プッシュシャフトを押しながら、スタビライザを回します。

「カチッ」と音がするまで回してください。

**注** スタビライザをフックとして使用しないでください。

破損や故障の原因になります。



## 釘の取扱い方

**注** • 釘は、ていねいに扱ってください。

落とすと、連結部が切れることがあり、そのままの状態で使用すると釘送り不良により、空打ち、釘詰まりなどが発生することがあります。連結部が切れた釘は使用しないでください。

• 釘は長時間外気や直射日光にさらさないでください。

さびの発生や、連結部に不具合が生じる場合があります。釘梱包箱などに入れて保管してください。

## 釘の装てんと抜き取り



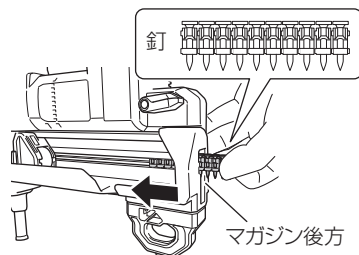
この作業時は必ずトリガをロックし、蓄電池を取りはずしてください。

**注** 空打ち、釘詰まりなど不具合の原因になるので、以下を守ってください。

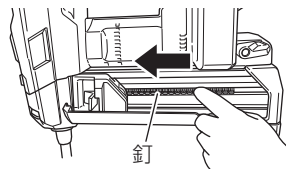
- 長さの違う釘を同時に装てんしないでください。
- 連結本数の少ない釘を、一度に数連装てんしないでください。
- 弊社指定の釘を使用してください。  
(P.13「別売部品」参照)

### 釘の装てん

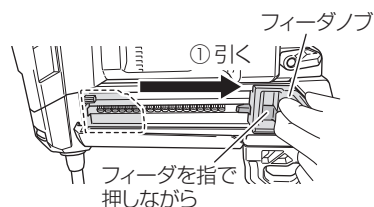
**1** 釘をマガジン後方から入れます。



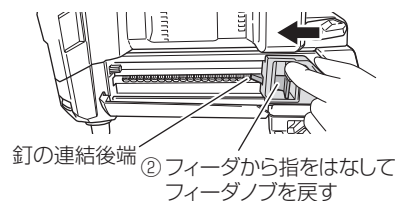
**2** マガジン内の釘を前方に送ります。



**3** フィーダを指で押しながら、フィーダノブをマガジン後方に引きます。



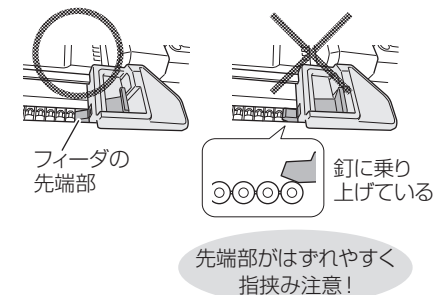
**4** フィーダを押していた指をはなし、フィーダの先端部が釘の連結後端を押すように静かに戻します。



**注** • フィーダノブは、静かに戻してください。

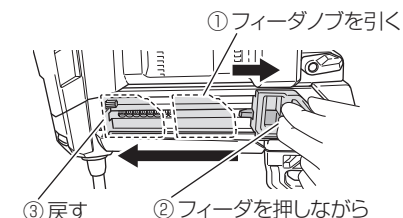
フィーダノブを急にはなすと急激に戻り、釘が変形したり、バラバラになり、釘詰まりの原因になります。

• フィーダ先端部が釘に乗り上げていることを確認してください。

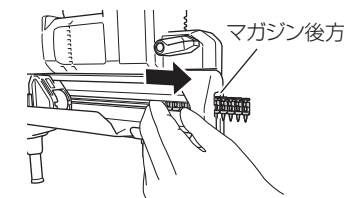


### 釘の抜き取り

**1** フィーダノブをマガジン後方に引き、フィーダを指で押しながら、フィーダノブを前方へ静かに戻します。



**2** マガジン後方から、釘を引き抜きます。





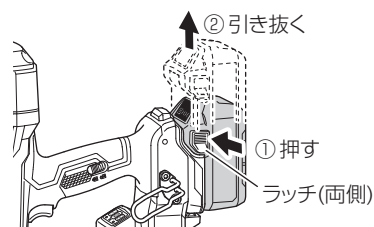
# 釘を打つ

- コンクリート施工の間仕切りランナー取付け作業
- 配線サドルバンド留め作業
- コンクリートへの木材取付け作業
- 鉄骨（H型钢）に対する薄鋼板留め

- 注**
- 低温時に使用すると、機体の動きが悪くなることがあります。  
暖かい場所に移動して工具本体、および蓄電池を少し温めて使用してください。
  - 材料のかたさ・厚さ・組み合わせによっては釘が曲がる場合や材料が割れる場合がありますので、試し打ちをしてから使用してください。

## 1 蓄電池を取りはずす

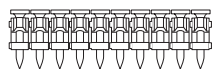
誤操作防止のため、蓄電池を工具本体より取りはずしてください。



## 2 釘を装てんする

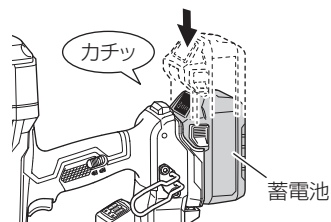
用途に合った寸法の釘を、マガジンに装てんしてください。

(P.21 **釘の装てん** 参照)



## 3 蓄電池を取付ける

「カチッ」と音がするまで、確実にさし込んでください。



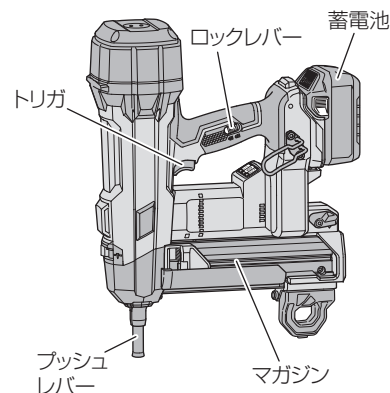
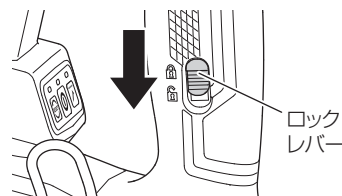
## 4 起動する

(P.16「機体の起動方法」参照)



## 5 ロックレバーのロックを解除する

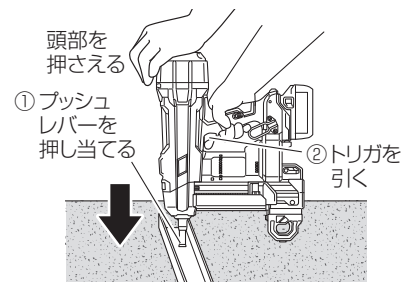
(P.14「トリガのロック機構について」参照)



## 6 釘を打つ

(**安全装置について** 参照)

- 釘を打つ所にプッシュレバーを確実に押し当てて、トリガを引きます。



- 釘の打ち込みが不完全なときは、本機の頭部をしっかりと押さえて打ち込んでください。
- 釘の打ち込み深さ調整は、P.19の「打ち込み深さの調整」を参照してください。

## 7 作業を終了する

作業後は、トリガをロックし、蓄電池を工具本体から取りはずし、釘を全部抜き取ってください。

(P.22 **釘の抜き取り** 参照)

## ⚠ 警告

プッシュレバーを固定しないでください。  
誤って釘を発射した場合、けがの原因になります。

### 安全装置について

本製品は、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当て、トリガを引くと釘を発射します。

逆の手順(先にトリガを引く、プッシュレバーを押し付ける)を行っても釘は発射されません。

従って、トリガを引いただけのとき、またはプッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけでは、釘は発射しません。

これは、誤ってトリガを引いたり、プッシュレバーを押し当てただけで釘が発射されることを防ぐためです。

また、プッシュレバーを押し当てたまま2秒以内にトリガを引かないと打てません。このときは、対象物からプッシュレバーをはなしてください。



## 釘詰まりの直し方

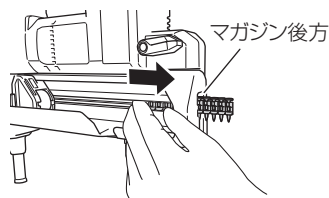


この作業時は必ずトリガをロックし、蓄電池を取りはずしてください。

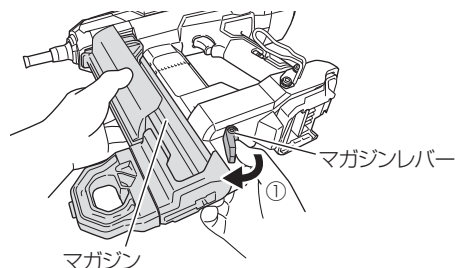
### ⚠注意

詰まった釘を取り除く際は、ペンチやマイナスドライバーなどを用いてください。  
不意に動くことがあり、けがの原因になります。

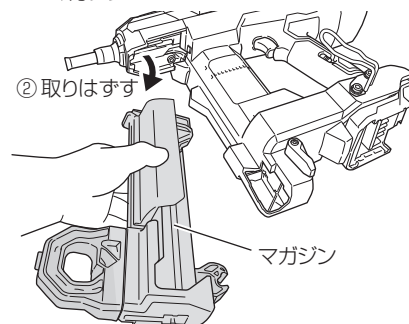
- 1 マガジン後方から、釘を全部抜き取ります。  
(P.22「釘の抜き取り」参照)



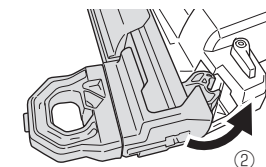
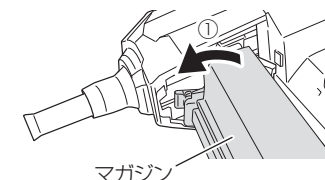
- 2 マガジンレバーを右図矢印の方向に回し、マガジンを機体から取りはずします。



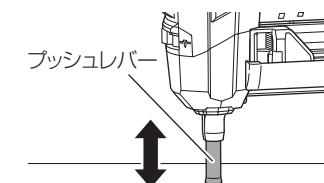
- 3 内部に詰まった釘や、連結プラスチック破片を取り除きます。  
(P.27「プッシュレバーと射出口の点検」、P.28「マガジンの点検」参照)



- 4 マガジンを右図のように取付けます。



- 5 プッシュレバーがスムーズに摺動することを確認します。



- 注**
- 釘詰まりを直した後の初回起動時は、警告シグナル（掛違い検出ランプ）が点灯する場合があります。  
その場合、P.17の「掛違い検出・解除機構」を参照してください。
  - 釘詰まりを直した後は、釘を装てんし、試し打ちをしてから使用してください。

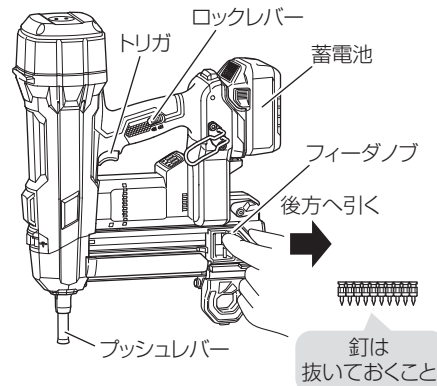
## 保守・点検

### ●安全装置の点検

本製品は、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当て、さらにトリガを引かないと釘が発射されない構造になっています。釘を装てんする前に蓄電池を取付け、フィーダノブを後方へ引いた状態で次の点検をしてください。

- トリガを引いただけで、モーターが作動しないこと。
- プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、モーターが作動しないこと。

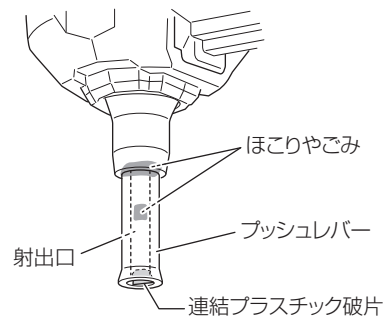
異常があるまま使用すると、けがの原因になりますので、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。



### ●プッシュレバーと射出口の点検

プッシュレバーがスムーズに摺動するか確認してください。プッシュレバーの摺動部や射出口、射出口内部は時々掃除してください。

プッシュレバー先端に連結プラスチック破片等が詰まっている場合があります。その場合には、細い棒等で除去してください。



### ●機体の点検

各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い求めの販売店に相談してください。

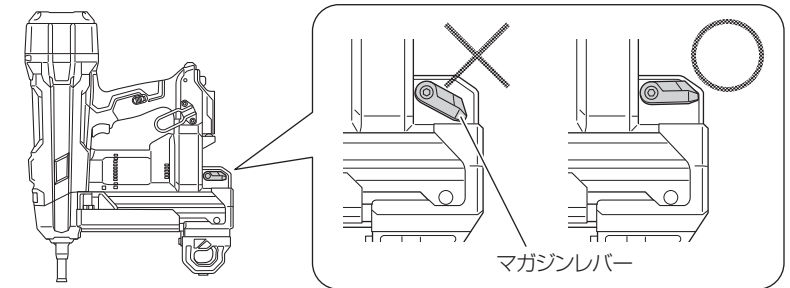
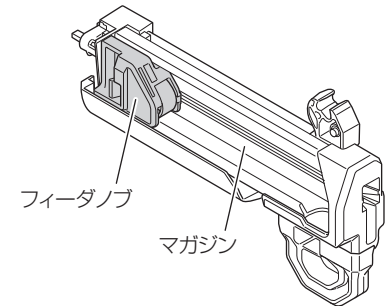
### ●端子部の点検

工具本体や蓄電池の端子部に接着剤、ごみ、木くず、コンクリート粉じんがたまっていないか点検してください。作業前、作業後のほかに作業中でも時々点検してください。

### ●マガジンの点検

マガジン内を時々掃除してください。中にたまったごみ、ほこりなどを取り除いてください。

- 注**
- フィーダノブが指でスムーズに引けることを確認してください。
  - マガジンレバーが正しい位置に戻り、マガジンが取りはずせないことを確認してください。



### ●清掃する

機体が汚れたときは、石けん水に浸した布をよく絞ってからふいてください。ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。

### ●モーターの取扱いについて

モーター（内蔵）(P.11「各部の名称」参照)に、油や水が浸入しないよう十分に注意してください。

### ●機体や付属品の保管

下記のような場所は避け、温度が50℃未満で乾燥した安全な場所に保管してください。

- お子様の手が届く場所、持ち出せる場所
- 軒先など雨が降りかかる場所、湿気がある場所
- 温度が急変する場所、直射日光が当たる場所
- 引火や爆発の恐れがある揮発性物質が置いてある場所

## ● リチウムイオン電池の輸送について

リチウムイオン電池を輸送する場合、次の点に注意してください。

### ⚠ 警告

輸送会社にリチウムイオン電池を含む荷物であること、および電力量を伝えて、輸送会社の指示に基づいた手続きを行ってください。

- 電力量が 100 Wh を超えるリチウムイオン電池の場合は、輸送貨物の分類上、危険物扱いとなり、特別な申請等が必要になります。
- 海外へ輸送する場合、国際法令および輸送先国の規制に従う必要があります。

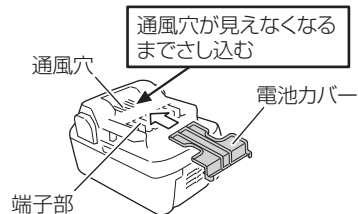


## ● リチウムイオン電池の保管について

### ⚠ 警告

リチウムイオン電池の端子部に導電性のある異物が入り込むと、短絡（ショート）して発熱・発煙・発火する恐れがありますので、保管するときは、以下の内容を守ってください。

- 収納ケースに導電性のある切りくずや釘、針金や銅線などの線材を入れないでください。
- 短絡（ショート）するのを防ぐため、蓄電池は工具本体にさし込むか、電池力バーを取付けて保管してください。



**注** リチウムイオン電池を保管するときは、半分程度の容量で保管してください。

蓄電池の残量が少ない状態で長期間（3 か月以上）保管すると蓄電池が劣化し、使用時間が著しく短くなる、または充電できなくなる恐れがあります。

充電と使用を繰り返しても使用時間が極端に短い場合は、蓄電池の寿命とご判断いただき、新しい蓄電池をお買い求めください。